

特別展 院展の彫刻

地下1階陳列室

特別陳列 琳派再生 神坂雪佳

2階特別陳列室

渋谷区 在住作家の作品

2階サロンミューゼ

会期＝昭和57年4月28日(水)－6月12日(土)

あいさつ

大正三年(1914)、横山大観が文展の審査員をはずされたことから、日本美術院系の作家たちが野に下って、日本美術院を再興し、日本画とならんで附属の彫塑研究所が生まれ、第一回(再興)院展が発足した。「特別展 院展の彫刻」は、再興日本美術院に属した平櫛田中・中原悌二郎・戸張孤雁・橋本平八・佐藤朝山・吉田白嶺・石井鶴三・保田龍門・喜多武四郎の代表的作品の展観であります。わが国の近代彫刻の確立をになったこれらの作家の作品に共通することは、近代的表现のうちに、東洋の伝統的精神性を追求していることでもあります。

「特別陳列 琳派再生 神坂雪佳」は、明治から大正、昭和にかけて京都の土地に密着して、京都人の美意識のうちに流れつづけた琳派の地下水脈をひたすら汲みあげた京都画壇の神坂雪佳の画業と芸術の展観であります。今日では一般の人々には忘れさられたかとも思われるその芸術は、古いようで新しく、新しいようで古く、きどるところのない素直で自然な表現は、観る者の心をうつことと思います。

この二つの展観の開催にあたり、東京芸術大学、東京国立博物館、東京国立近代美術館、神奈川県立近代美術館ならびに所蔵者各位の示された寛大な御好意と関係者の御協力にたいし、深く感謝の意を表します。

昭和五十七年四月

渋谷区立松濤美術館

講演＝5月8日(土)午後2時 「院展の彫刻」——東京国立博物館 原田 実

5月29日(土)午後2時 「琳派再生 神坂雪佳」——東京国立博物館 小林 忠

院展の彫刻

日本美術院は明治三十一年(1898年)東京美術学校(現東京芸術大学)校長を辞任した岡倉天心を中心に結成されました。横山大観、下村観山、菱田春草等の幾多の俊英を輩出した日本美術院も途中で立消えになりましたが、大正三年(1914年)再興されました。

今回陳列する作品は、この再興日本美術院の彫刻部に属した作家のもので、大正初期から昭和初期にかけての作品が中心です。

それらの作家の作品の特色は、それまで多く見られた伝統的或は宗教的なテーマから離れ日常我々を取巻く題材や自己の内面を見つめる方向に眼が注がれていることです。

橋本平八の『ある日の少女』の愛らしき清らかさは、そのきめ細やかな日常の生活に対する愛情から生まれ、平櫛田中の『転生』など一連の作品は、自己の内面を見つめその結果を普遍的なものに高めようとする気迫と情熱を感じさせます。また中原悌二郎の『若きカフカス人』には、堅実な構造の奥に、純粹で柔軟な感性が秘められているのを見ることが出来ます。

ロダンに傾倒した中原悌二郎、戸張孤雁、プールのに師事した保田龍門、佐藤朝山、「ロダンよりも推古仏に魅力を感じる」と言った石井鶴三、木彫に命をかけた平櫛田中など作家により個性の違いには大きなものがあります。

ともあれ、この時期の院展(日本美術院展覧会)の彫刻には、様々な題材を自由に選んだバラエティの豊富さと、自己の内面に深く入り込んでいった作家の情熱の確かさを見ることが出来、ここに大きな魅力を感じるものであります。

出品目録

- 1 吉田白嶺
《かわせみ》ブロンズ
東京芸術大学蔵
- 2 平櫛田中
《木によりて》大正3年 木彫
東京国立博物館蔵
- 3 平櫛田中
《森の仙人》大正6年 木彫
東京国立博物館蔵
- 4 平櫛田中
《転生》大正9年 木彫
東京芸術大学蔵
- 5 戸張孤雁
《唱える女》大正3年 ブロンズ
- 6 戸張孤雁
《曇り》大正6年 ブロンズ
東京国立近代美術館蔵
- 7 戸張孤雁
《煌めく嫉妬》大正13年 ブロンズ
東京国立近代美術館蔵
- 8 石井鶴三
《浴女》大正14年 ブロンズ
東京芸術大学蔵
- 9 佐藤朝山
《牝牛》大正15年 木彫
東京芸術大学蔵
- 10 佐藤朝山
《鷹》昭和6年 木彫
東京芸術大学蔵
- 11 中原悌二郎
《墓守(老人の頭部)》明治43年 ブロンズ
神奈川県立近代美術館蔵
- 12 中原悌二郎
《石井氏像》大正5年 ブロンズ
東京芸術大学蔵
- 13 中原悌二郎
《平櫛氏像》大正8年 ブロンズ
東京芸術大学蔵
- 14 中原悌二郎
《若きカフカス人》大正8年 ブロンズ
神奈川県立近代美術館蔵
- 15 保田龍門
《クリスティーンヌの首》大正12年頃 ブロンズ
東京芸術大学蔵
- 16 橋本平八
《猫》大正13年 ブロンズ
東京芸術大学蔵
- 17 橋本平八
《ある日の少女》昭和9年 木彫
東京芸術大学蔵
- 18 喜多武四郎
《少女》大正15年 ブロンズ
東京芸術大学蔵

琳派再生 神坂雪佳

神坂雪佳(1866~1942)は、日本の近世芸術に重要な役割を果たした琳派の伝統を、明治から昭和の初期にかけて再生させた近代京都の芸術家です。染織をはじめとする工芸意匠の図案家として活躍しましたが、純粹の絵画制作にもすぐれ、生前は幅広い支持と名声をかちえていたものでした。

没後は久しく忘れられていましたが、近年再評価の動きもおこりつつあります。ここにふたたび琳派の流れを受けつぐ画家としての伎倆を確かめ、その華麗な美の世界を認識する機会にしたいと思います。

出品目録

- 1 《四季草花図》2幅
絹本著色 120.7×27.0cm
- 2 《楓図》1幅
絹本著色 117.4×26.4cm
- 3 《白梅図》1幅
絹本著色 123.0×42.4cm
- 4 《蓬萊山図》1幅
絹本著色 135.8×51.1cm
- 5 《紅葉狩図》1幅
絹本著色 110.5×36.1cm
- 6 《神楽図》1幅
紙本著色 126.7×23.2cm
- 7 《月下砧打図》1幅
絹本著色 34.2×42.2cm
- 8 《釣舟図団扇》1幅
紙本著色 23.7×24.5cm
- 9 《百合図団扇》1幅
紙本著色 24.3×24.5cm
- 10 《伊勢物語図扇面》1幅
紙本著色 0.3×59.0cm
- 11 《秋草図団扇》1柄
紙本著色
- 12 《鹿紅葉香合》(清水六兵衛作)1合
陶製(金地著色)
- 13 《松図広蓋》
板地著色
- 14 《白蓮図袱紗》1枚
絹地著色
- 15 《版本『百々世草』》(明治43年刊)2冊
紙本木版色刷

渋谷区 在住作家の作品

作家略歴/出品目録(50音順)

入山白翁

明治37年(1904) 新潟県白根市に生まれる
昭和8年(1933) 東京美術学校漆工科卒業
《渦潮》1978年 漆画 変形30号

大久保 泰

明治38年(1905) 愛知県豊橋市に生まれる
昭和3年(1928) 早稲田大学商学部卒業 野口弥太郎
児島善三郎に学ぶ
《トレドの眺め》1967年 F30号

大森啓助

明治31年(1898) 兵庫県神戸市に生まれる
大正9年(1920) 関西学院高等部卒業 川端画学校で
学ぶ
《群泳》1976年 F30号

清原啓一

昭和2年(1927) 富山県砺波市に生まれる
昭和27年(1952) 明治大学卒業 辻永に学ぶ
《古代壺の盛薔薇》1928年 F30号

児玉幸雄

大正5年(1916) 大阪市に生まれる
昭和14年(1939) 関西学院大学卒業
《オンフルールの漁港》1981年 F30号

近岡善次郎

大正3年(1914) 山形県新庄市に生まれる
昭和8年(1933) 文化学院美術部卒業 石井柏亭・有
島生馬・山下新太郎に学ぶ
《スペインの思い出》1968年 M40号

堀内正和

明治44年(1911) 京都市に生まれる
昭和4年(1929) 東京高等工芸学校彫刻部を中退、二
科会の研究所(番衆技塾)に入り、藤川勇造に師事する
《かたむくカタチ1》1982年 高さ226.5cm

村田勝四郎

明治34年(1901) 大阪市に生まれる
大正14年(1925) 東京美術学校彫刻科卒業 北村西望
に師事、ひきつづき研究科に入り朝倉文夫に師事する
《少年とトキ》1967年 高さ137cm

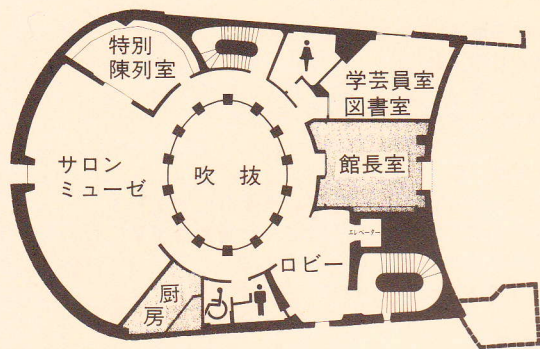
森 芳雄

明治41年(1908) 東京に生まれる
大正15年(1926) 慶応義塾普通部修了。1930年協会洋
画研究所に入り、中山巍の指導を受ける
《助ける》1977年 F30号

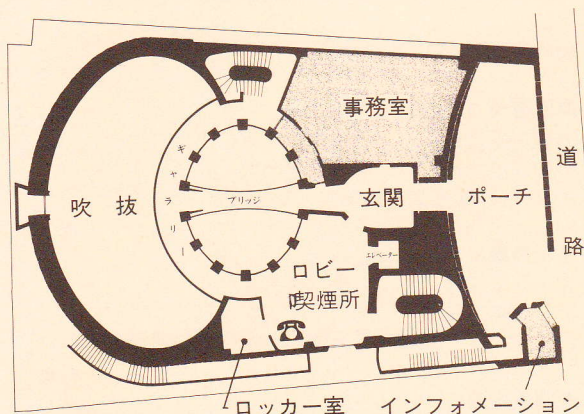
脇田愛二郎

昭和17年(1942) 東京に生まれる
昭和39年(1964) 武蔵野美術大学卒業
昭和40年(1965) ニューヨーク、ブルックリン・アー
ト・ミュージアムに学ぶ
《コスミックボリューム》1981年 高さ100cm

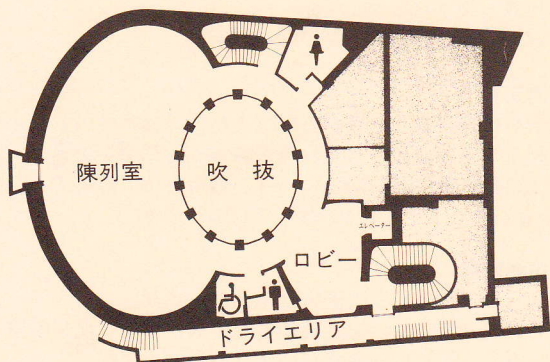
松濤美術館・平面図



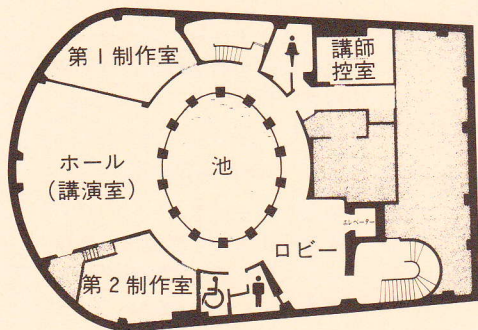
2F=2階



1F=1階



B1=地下1階



B2=地下2階

開館時間 午前9時～午後5時（ただし、入館は4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（ただし、第2週のみ日曜日）
祝日の翌日及び年末年始（12月29日～1月3日）

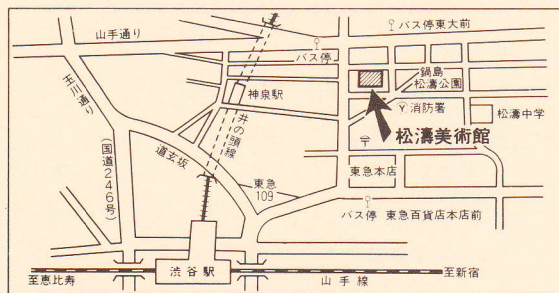
入館料

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

お願い

- 陳列品には手を触れないでください。
- 館内では万年筆、筆などを使用しないでください。
- 写真撮影や模写はご遠慮ください。
- 手荷物は1階ロビーのロッカー（無料）にお預けください。
- 動物や危険物は持ち込まないでください。
- 煙草は1階ロビー以外ではご遠慮ください。
- 下駄ばきの方は受付窓口にお申し出になり、スリッパにおはきかえください。
- 他の入館者の迷惑にならないように静かにご覧ください。

案内図



交通案内

- 山手線 渋谷駅下車——徒歩10分
 - 井の頭線 神泉駅下車——徒歩5分
 - 東急バス（渋谷駅⇔幡ヶ谷折返し所）東大前下車——徒歩2分
 - 東急バス（初台駅→渋谷駅）東急百貨店本店前下車——徒歩5分
 - 京王バス都営バス（阿佐ヶ谷駅→渋谷駅）東急百貨店本店前下車 徒歩5分
- ※駐車場は、当館、付近にもごさいません。

渋谷区立松濤美術館

〒150 東京都渋谷区松濤二丁目14番14号
電話(03)465-9421